

高齢者の肺炎球菌ワクチンについて

●肺炎球菌感染症とは？●

肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫（飛んで）感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻やのどの奥に菌が常にいるといわれています。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

●高齢者の肺炎球菌ワクチンの効果は？●

☆肺炎の予防や肺炎にかかっても軽い症状ですむ効果が期待されます。

肺炎球菌には93種類の型がありますが、このワクチンの接種により、そのうち23種類に対して免疫をつけることができます。さらに、接種により、成人の重症の肺炎球菌感染症の7割に効果があるといわれています。

☆一度の接種で5年以上効果が続くといわれています。

インフルエンザのように毎年接種する必要はありません。なお、5年以内に再接種を行うと、注射部位の痛み、赤み、しこりなどの副反応の頻度が高く、程度も強く表れることがあります。接種歴を必ず確認して接種してください。

●ワクチン接種が不適当な方●

次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはいけません。

- ① 明らかな発熱を呈している方
- ② 放射線、免疫抑制剤等で治療中の方（免疫抑制剤による治療を受けられる方は、少なくとも14日以上前までに接種を行ってください。）
- ③ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ④ 本剤の成分によってアナフィラキシー（通常接種後約30分以内に起こる、ひどいアレルギー反応のことです。発汗、じんましん、吐き気、息が苦しくなるなどの症状に続き、血圧低下といった激しい全身反応がみられます。）を呈したことがあることが明らかな方

上記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

●接種要注意者●

健康状態及び体質を勘案し、次のいずれかに該当すると認められる場合には、注意して接種しなければいけません。

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ 本剤の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある方

●接種後の注意●

- ① 接種当日は激しい運動を避けてください。(接種当日の入浴は差し支えありません。ただし注射したところをこすらないでください。)
- ② 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。接種後は自らの健康管理に注意し、もし高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気づいた場合は、ただちに医師の診療をうけてください。

●副反応について●

接種後に注射部位の腫れ、痛み、軽い発熱が見られることがありますが、日常生活に差し支えるほどのものではありません。多くは1～2日で消失します。また、非常にまれですが、ショックや呼吸困難、運動障害などが表れることがあります。なお、局所の異常反応、体調の変化、高熱、けいれんなど異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

●重篤な副反応発生時の救済制度について●

定期の予防接種により、重篤な健康被害が発生したときには、予防接種法の規定により、発生した健康被害の救済が行われることになっていますので、厚生労働省へ認定手続きをすることになります。当該予防接種と因果関係がある旨を厚生労働大臣が認めた場合、健康被害に対する給付を行う制度です。